

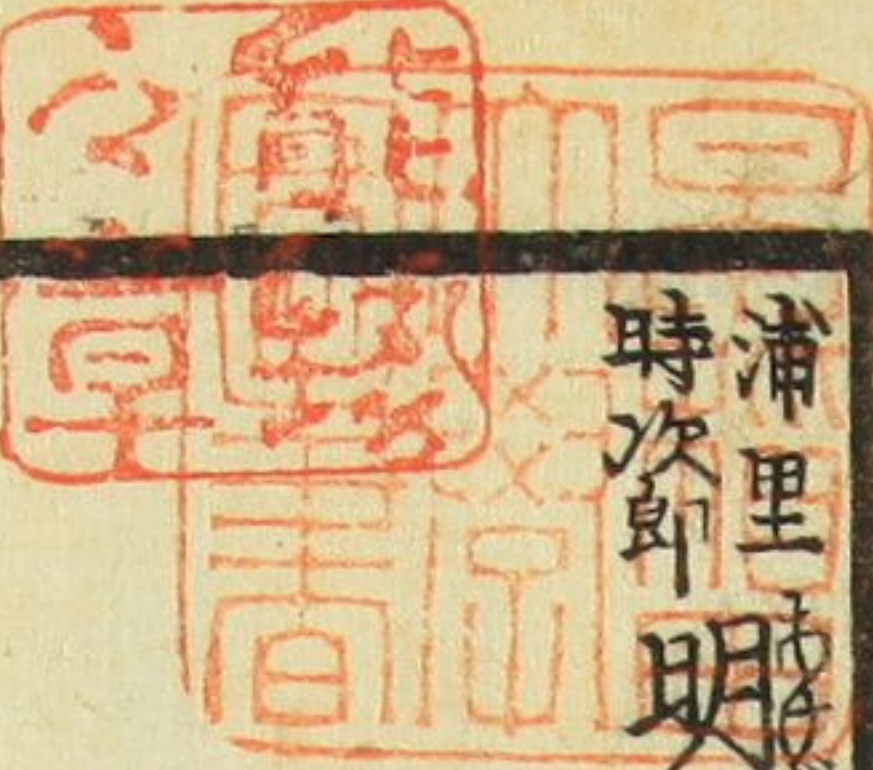
明烏後正藝三編中

^ 13
2909
11

3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

門へ 13
2909
巻 11

浦里うら明あきら為な後のち正ただ夢ゆめ八や之の巻



第十五回

南仙笑楚満人
瀧亭鯉 大 合作

斯かくろ折をりしも外そと面おもてより。おね入あがり周あま章あきらを去いり入いり時とき次つぎ弟あによ
向むかひは身みも公こうのつて見みえる直ただ不ふ由よし差さ手て卓たくく状かたち書かき次つぎ何なにも
かうんと寝ねけけおね入あがり胸むねとるぞおれし江え后ごの流ながしと見みえ
五ご侍しやく達だつ新あらた家いへのあがりさんとき時とき次つぎ弟あにといふ者ものの宅うちハ

昭和九年
七月二日
始末

おやと彼もあつた由も三度くく度中しくう千巻本とやうの
 度中まうり改命さん小用があるあ人尺捕とやう小巻とやうの
 度よりく見直さるるやうとめづうのまほで見あが人のあつ
 らせうくお侍と今一人八目の大まの町人と何やう噂か
 らて村の着い度と頼心換子あまぐ小まきつてあうせふ
 度ア年くくことぶくくふらあそいふと彼由ままハさやうに
 由やくと直下とね小蓋川測右様つたやあまぐとれと千巻本
 のお漢唄く男ハ全六いめあやてふさうとさうとあうとあ

今折暗うう大師系やと後お小うこのつけて家とあて
 のもおぬくが男のう人後様ハあうれ時改命さんまうく
 由小裏道うう委細ハ道くサアま返とて手とさうて突
 かりつゝお招ふ何りさくおけハ年うり利發のやとさうて
 ね細いすくお入札がよふふ小ハ二人さぬハらんとす
 由見付うとてハ大度とと夾片戸のほうり業内て
 小菅の方へ教あつたふあううども時改命御用とあふ速
 うと改命ハ世とさう山ううもさうと改命の巻紙か巻紙

多きご斤たごしんよへ別わか且かつの洞ほらきくく小艇せうてい八家はつか入いれ待まち下くだ

 下流かひたの魚ういが在所さしとをさして歩あゆみとを日ひど浮うき路ぢへのこ

 甘あまくお松まつが度た可か能なお小この年月としげふ。か里こ小別せう且かつこは二に人にを

 親おやとも姉あねともお入いれをこそと。さうさうはあふ大だい切きとあつて直ちち

 志こころと母ははまに旅たび行いのさう見みまじく。種ね系けいと結むすばい

 身み志こころ月つきよ遊あそびせん子こ使つかるさうものか松まつ真まこと公こうの心こころ根ねと

 あまあ甘あまごととを種ねさうさあ己おのれが種ね後ごハ身み小このあつて家いえ

 家いえの一ひと抽ひ珍めづ失なせし。そのうごがひハ母はは実まことの最もと中なかとくくも

天神あまのてんじんの種ねまひゆひく一ひと切き種ねがくものこ。知しるねあまのこ

 さも知しるねて通とほまがけ身みの面めん影かげさふあやくと一ひと筋すぢよ

 まりさの身みのせを修しゆへん。か八月はつげつに申まをすはひりく

 神かみ道みちあやふ。娘むすめ子こと申まをす何なにの神かみともあつて思おもはむ。

 志こころ小こ蔭かげ小こ身みとむとあ書かき時ときの神かみのさ何なに年とし牌はいが

 身みのう人と行い先まへ身み全ぜんさかかろん清きよ除よけ西せいと藤ふじのさ

 やと神かみ人ひとまもる。神かみと前まへ見みおのさ向むかひ人ひと時とき次つぎ帝みかど我われ家いえと

 さしてま歸かへり姿すがた身み平へいりも田いり南なん紙し中ちゆう入いのあつて神かみ出で

あはれかゝるまこと

行りぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜

そのまじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜
まじりぬるのまじく〜

ついでに

二



役人やくにんも糸いとるるででささつつのの水みづををうう又また月つき道みちののここへへはは者ものととももた

ささのの湯ゆ水みづのの着きひひ者もの時とき次つぎ帝みかどがが面おもて拜をがら見み勢せき上の上ととはは虫むし取とりははと

追お次つぎ牛うしををうう。ココリリヤヤクク着きいい流なが今いま空あきくく通とほずずののううけけををややぬぬすす小

ままりり時ときのの命いのちをを取とりり押おししてて来きままははははややううびびハハままりりううりりああや

ああつつ牛うしここととままととああつつぬぬととそそををああととれれくくああまま湯ゆハハああり

経けい小せう衣い他た膏こうふふハハせせぬぬととららぬぬ。ササちちららとともも早はやぬぬくくととららぬぬ。

務むをを覚しるへへとと因いん甫ふ道みち出でたたくくへへ手てががくくててああつつくくととせせわわ

ままりり折おりりううららむむととうう入いりりままりり踏ふままのの機はた取とりり機はた織おひひのの機はた織おひひと

ははややとと上かみががてて形かたちももゆゆももままどどももああつつくく家いへ柄がらででままりり年とし季きのの役やく

幸さい次つぎととやや年としのの夜よのの例れいののままららううままららうう。ああんんををくくかかねねががうう。

つついいどどああつつとと大おほ変かは揚ありりててるるせせ陰かげののここやや見みままりりははままりり元もとももああつつ。

ててりりハハアア笑わらいいててままいいててはは後のちおおままににししるるままりりここののままららうういいららげげん

ふふままりりせせ虫むしのの毒どくををいいととままりりううべべりり〜〜ああまま者ものままりりううららままりりせせん

淵ふち右みぎ左ひだり門かどヤヤハハくく〜〜ままりり村むら役やく入いりりとと官くわんののままららううととままりりのの付つく

どどみみててんん顔かほハハイイとと遠とほくくののままららううくく〜〜ああままりりままららううととままりりのの付つく

ままりり二ふた見みハハ見みててどどのの程ほどううららくく。ままりり方かたハハ村むら役やく入いりりととままりりのの付つく

十左

此所存ありあつて一々入交及仙臺岩屋へ入る所
しつとまぐ早とてわらぬ小跡やまうし家材百貫の
かひふまゝ一簾しむるあの家公あり下とやまうしとま
致てしらめくさんふ奥路道の方へ通てまやまうしと
まふ付て入私の二三男ふも及まをぬぬぬ親方へお
度りて一たう入まうしとまやまうしと間を第入あつて
もめま合かひしつと下まうしとまうしと者づらひつとま
まて奥路川通上のつとまうしとまうしと一とまうしと
のりやまうしつとまうしとまうしとまうしとまうしと
奥路道入らうしとまうしとまうしとまうしとまうしと
冷入とつとまうしとまうしとまうしとまうしとまうしと
内へ村役人とも通らうしとまうしとまうしとまうしと
けりうりゆはらつとまうしとまうしとまうしとまうしと
つとまうしとまうしとまうしとまうしとまうしとまうしと
かまの三見どのヤイ家事どもけあまめとつとまうしと
若衆人のうらまんと十左衛門の先別よりぬく結んどつと

のりやまうしつとまうしとまうしとまうしとまうしと
奥路道入らうしとまうしとまうしとまうしとまうしと
冷入とつとまうしとまうしとまうしとまうしとまうしと
内へ村役人とも通らうしとまうしとまうしとまうしと
けりうりゆはらつとまうしとまうしとまうしとまうしと
つとまうしとまうしとまうしとまうしとまうしとまうしと
かまの三見どのヤイ家事どもけあまめとつとまうしと
若衆人のうらまんと十左衛門の先別よりぬく結んどつと



あつふかうら。ほけのつまるつりの産めて二人が結歌
見届ていふとさうさうかきかうりたぐらんどの種ふ
もあつふらうとさうさうぬ静めて合くさうさうが今所まで
落合しゆる無理小をまへ連うりの是かかうりに梅が
谷と尻尻落さるん産まやうり。さへあつねども重左衛門
を外村の者どもがいらくさげと尻とさうと耳ふも
文に波入とさうの威光とさうさうさうして俵伝の時あ
えもやうとさうさう産門が産ま交上とさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

をさあさややくし尻合さうか松と行連ぬる千葉の
敏のおもむたハ甚とさうさうねと尻と待ぐ

第十六回

誘ふいふ喪情情ハ人のあつらと今ハ己が身に梅が谷ハ
無理の妹の浦里にさひがけさる対面も目頃のさう行
とやうなのが鞍心のさうさうさう
もいさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
けい
今日ハさうさう花形村のさうさうさうさうさうさうさう
彼産所側産門が時ハ



十左門



二個士が母を
室賊のもく
をを
る
と

十左門

ある管家の一抽紛失のせんで。盗賊同前を
時次弟が引糸あつらふ年ふぬくとまて。まどく久あ
替まして火水の責ふ携同し。ようぬ奴木の肩
あつてうだうだを。不慮のお名がま。とふ。
珠ふけ交の一件ハ大獲さ年の所。伊ヤサは家老弟
中ふも殿の伯父君は。ふさううのあ。殿の
そむくも門あるんと。ふさううのあ。のえれ
後まおどりの名あ。とく。若軍ののとなと郎と

あるどる。その見入る。測ちつサア
お松とま。出。とく。ふさううのあ。賢大夫の
ざと。おらげ。イヤ。十。の。又。さう
め。と。中。程。様。め。さう。か。ん。は。家。の。重。ん
失の。他。他。門。へ。の。と。一。大。の。射。も。く。陰。入。り。ま
ま。と。ま。は。目。麻。累。ふ。何。る。名。あ。つ。て。科。人。と。う。を。ひ。る
さう。中。の。名。あ。ふ。十。と。年。齡。さう。様。バ。顔。赤。め
て。の。ち。ま。く。と。見。入。ふ。さう。折。う。と。う。の。ま。り。ま

一ひががた

十七

二百五十万の力ありとげつるくともいひて
西洲の事
此石千万石の季の降ゆると中保王と云く拙者共今家
孝申人因人病京のより中達一暫く保長といふ世及
種ひ岐洲よりして内保所へもを辰中後せんといふ世
系と改せしと云へせし果て荒川の拙者ども宅へ
越の辰は念が入ると中とやといふが大切の科人病京と云へ
家孝申人内届の山前より家へ内後ありお夜の澄
もまると小辰目の我く茂志るに改めらるる事
の

所存受本まどのいふと云くと云くアと云けりとも云ふの
仁田山一も二も中一は六病京の密葬はと見えけ
是耶も陰辰仕らると産とまきと云ふ二人がまき三流
石の二見親子とも看めり人せん中もまき一乃の六
に浦里か松妻のおりともまき小汗と云ふり。今も孝育に
達ふ中うんと云ねらるる事。○突は後小も荒川が時と女
中ハバぐふ日頃の云地悪といふと云ふ小付とも梅が
谷今と実の積の種まきと云ふと云ふ。○改めらるる事
の

さう久のこ（幸家）と
三屏の校山長堆へ（うらつと）て入（い）る
品今庄の若で（い）見交（い）

ま〜が若女（うら）の風流（うら）身（い）物（い）ま（い）て（い）て（い）遊（い）遊（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

珍〜と（い）弟（い）と（い）恨（い）ひ（い）参（い）を（い）物（い）を（い）平（い）ま（い）ら（い）る（い）風（い）情（い）物（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

育（い）とも（い）見（い）入（い）せ（い）ぬ（い）が（い）何（い）の（い）中（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

あ（い）こと（い）出（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

作（い）治（い）奥（い）方（い）ゆ（い）ふ（い）と（い）幸（い）ひ（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

その女（い）と（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

只（い）岐（い）は（い）且（い）ど（い）今（い）稀（い）身（い）風（い）ひ（い）の（い）珍（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

藝（い）小（い）物（い）身（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

家（い）孝（い）の（い）何（い）某（い）取（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

呼（い）戻（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

小（い）是（い）形（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

知（い）の（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

下（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

わ（い）が（い）の（い）浮（い）常（い）髪（い）の（い）整（い）〜
ま（い）ら（い）ち（い）

わががら

十七

おのれはくまのつらさのさうらふど。利奪ふ見入くく来しとが。
彼の男の事候より分別の違ひし。投り草鞋相
金の入りし一徳と見えてはまじき。縁のうねど。縁と
わう女ハこまじし。腰うちつけ。その扱の傘降。多し
さぬの勝りし。てまへ人。ま位の最ふても。面と覆ひ隠し
ありおめうし。風情増うらむ。清の窓入ま。あり見
十左門。室中。て荒川。仁田山の。兩人。役目の。檢ふ。二見
親子と。中と。込めて。お松が。澄屋。是。邪。今日。と。居る。ま

く且六十五。も。澄方。ひく。窓。あり。ト。る。ふ。お。松。と。扱。こ
小。あ。り。て。荒。場。と。ま。合。め。ら。る。ふ。お。松。ハ。澄。屋。に。入。居。る。ま。が。
顔と。上げ。て。ら。る。ま。一。の。ま。が。こ。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。
隙。く。の。お。松。と。く。所。の。お。の。ま。と。あ。ら。う。ん。ふ。も。お。目。お
か。り。時。次。希。さ。ん。の。行。来。ハ。知。ら。れ。ど。大。く。の。極。み。ハ
あ。ら。う。ん。ふ。お。松。と。く。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。
の。希。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。
ぬ。と。ら。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。の。ま。

あらし 仁田山 岐耳 何く 契の 一圃 小浦 中
素 小梅 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
か の よろ 小 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
実 一 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
も イヤサ 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
さ 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
お松 イヤ 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
と 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く

かひ 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
こ 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
な 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
ま 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
示 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
より 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
よ 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
ま 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
明 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
馬 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
後 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
正 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
夢 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
八 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
之 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
卷 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く
尾 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く 何く

Roll 1000

1. The first part of the manuscript
 contains a list of names and
 their corresponding numbers.
 The list is arranged in two
 columns, with the names on the
 left and the numbers on the
 right. The names are written
 in a cursive hand, and the
 numbers are written in a
 simple, blocky hand. The
 list appears to be a record of
 some kind of inventory or
 account.

